

令和5年度あすなろの里ミニ門松作り手順書

1、ミニ門松の土台を作ります。

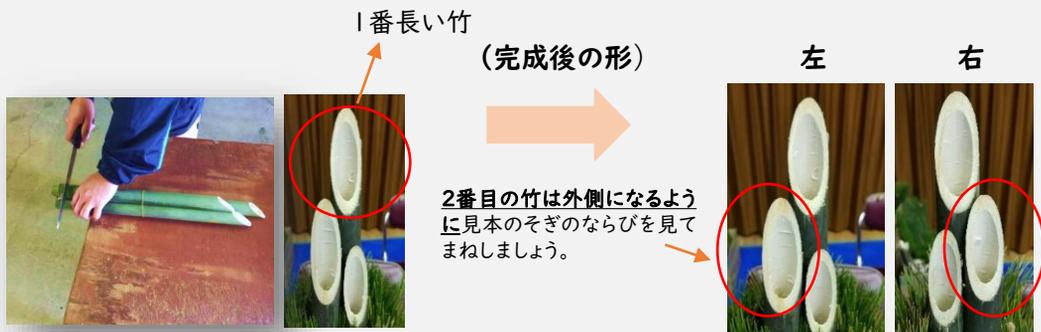
竹の上部と下部に両面テープを貼ります。輪ゴムでわらを固定し1本ずつ張ります。



稲わらは20センチほどに切ったものを準備していますが、稲わらの代わりにホームセンターで購入した稲わらで編んだ筵(むしろ)通称「こも」を使用してもOK!あすなろの里では竹(モウソウチク)を節で15センチほどの長さに切っていますが、食缶などの容器で代用してもOK!

2、中に入れる6本の細竹の長さを切りそろえます。

細竹の切り口(そぎと呼びます)を3本で1セット輪ゴムで固定しノコギリで基部を切ります。厳密な長さをはかる必要はありませんが、3本のうち1番長い竹の長さは**30センチほど**にすると美しく仕上がります。竹はすべて同じ高さにせず、**写真のように3本の竹の高さをずらし輪ゴムで固定します。**



細竹(大塚戸町や菅生町ではしのだけと呼んでいます)を用意するのは、お住まいによっては困難でしょう。100円ショップなどで緑色と白のフェルト生地を購入し、外側に緑色のフェルト1枚、内側に白のフェルトを2枚重ね、1本の筒状に丸め固定します。ハサミで切る際に見本写真の切り口(そぎ)に見えるように切りましょう。これを6本作ります。

3、土台に麻縄をまきます。

上から3巻、5巻、7巻と麻縄をまいていきます。まき終わったら、なるべくほどけないように結び目(リボン結び・かたむすびOK)をつくります。長すぎる場合はハサミで切りそろえます。結び目はそろえます。



- ← 3
- ← 5
- ← 7

「いぼ結び」(男結び)

とよばれる縛り方があります。ミニ門松で使用する縄は実物と比べると細く、いぼ結び特有の結び目は目立たないので、かたむすびやリボン結びでもOK!

※完成後は結び目は後ろにします。ただし、「いぼ結び(男結び)」にチャレンジした場合は結び目を前にしましょう。

麻縄は、あすなろの里ではジュートひもを使用しています。100円ショップでも購入できます。

4、土台の裾を作ります。

テーブルの角を使って裾を90度に折っていきます。裾にくせがついてきたら、ひっくり返しテーブルに置き、再度90度に折っていきます。再びひっくり返し、裾をハサミで整えていきます。切り終えた裾は5センチほどになるようにします。



きりふきなどでわらの裾などをしめらせると作業がしやすくなります。

5、砂を入れてお飾りをさします。

土台に切り終えた細竹(2)を入れ、砂を入れていきます。砂は、土台の2/3ほど入れます。棒などで砂を土台のすきまからつき固めると、お飾りがさしやすくなります。お飾り(マツ、キンカン、ナンテンなど)は飾り方に決まりはありませんが、竹のまわりにマツの葉をさしていき、最後にキンカンやナンテンの実をそえてあげると綺麗に仕上がります。また、マツの葉で細竹の切り口(そぎ)が隠れてしまった時は、はさみで長さを切りそろえると見た目も美しく仕上がります。



砂を入れすぎると固くてマツの葉をさせないので注意しましょう。



マツの葉は学習で余った場合において、体験学習日以降に年内に限り園で配布予定です。見本にこだわらず身近な実を使用しお好きな飾りつけをしてみてください！



協力：青少年育成常総市民会議菅生支部
里地・里山保全むくの木会